



治験、臨床研究の振興

独立行政法人 科学技術振興機構 (JST)
理事長 沖村 憲樹 (Okimura Kazuki)
(JAPIC 評議員)

いわゆる「失われた十数年」を抜け出て、現在はバブル期を凌ぐ好景気と言われている。好景気は、自動車、家電、機械、材料等製造業、金融業等我が国全般にわたる。

かつて、1980年代、「ジャパンアズナンバーワン」といわれ、我が国の製品が世界を席巻していた頃、米国大統領の諮問機関「国際競争力委員会」は、日本をうち負かし、アメリカを世界一にするための所謂「ヤングレポート」を出した。米国政府は、これを実行に移し、強力かつ広範な科学技術政策を実行し、再び米国世界一を実現した。

米国は、2004年12月、再び、「国際競争力委員会」から「パルミサーノレポート」を出した。約2年間、産業界、学界、官界のトップ数百人があらゆる角度から科学技術政策を真剣に検討した結果である。そして、本年1月ブッシュ大統領予算教書にその実現が図られている。物理系を中心に抜本的な基礎研究予算の拡充、理科教育の抜本強化が主な内容である。今回のターゲットは、日本ではなく、中国とインドである。アメリカは、最早、科学技術、産業の分野で、日本を恐れるにたる相手と見なしていない。何故か。

中国、インドの人口膨張、驚異的経済成長及び科学技術の発展に引き換え、我が国は少子高齢化、黄昏の国であることも一因であるが、我が国に対する科学技術、経済、教育全般にわたる評価が低いことが大きな原因であると思う。我が国の現状及び将来の科学技術水準は、世界的に見て、どう判断されるべきか。

文部科学省科学技術政策研究所の調査によれば、我が国の研究者、科学者は、「アメリカに対し、殆ど全ての分野で劣っており、差が開きつつある。ヨーロッパとは、ほぼ同等、中国韓国より勝っているがその差は、急速に縮まりつつある。」と感じている。

スイスのシンクタンクIMDの調査によれば、我が国の国際競争力は、1980年代世界第2位であったが、今や17位。IMD調査は、諸々の項目の総合評価であるが、その中で極めて評価が低いのが、大学の評価である。東大を始め、一部の大学の基礎研究レベルは高いのであるが、相対としての研究、教育、社会への貢献の面で評価対象国中最低レベルの評価である。我が国企業は、日本の大学より約3倍の資金を海外の大学に提供している。日本の大学へは、海外からの研究者

も留学生も極めて少ないのが大きな特徴である。中国、韓国をはじめアジアの優秀な研究者、留学生は、欧米に集中している。

OECDのハイテク貿易統計によれば、我が国のハイテク貿易比率は、1994年20.8%が2002年には、11.2%と激減。その減少分9%は、中国、韓国等の伸びによって埋められている。ちなみに、アメリカ、ヨーロッパは、変動がない。我が国のハイテクは、アジア諸国に追いつかれやすい脆弱な体質といえる。

ハイテク貿易内容を見ると、宇宙航空、医薬の比率が、欧米に比し極めて少ないのが特徴である。宇宙航空は、米国36.2%、フランス、ドイツ14%、イギリス17.8%に比べ、我が国はわずか1.77%。医薬品は、欧米が十数%、我が国は、わずか、2.7%である。この両分野は、圧倒的に輸入超過である。我が国は、ハイテクのなかでも、超高度ハイテクの分野では、著しく弱い、ハイテク中進国といえる。

原因はなにか。宇宙航空分野は、武器輸出が出来ないことが大きく影響している。宇宙では、軍事利用ができない。さらに、政策が適正であったか、研究開発に力を入れてきたか等多くの問題を含む。第三期科学技術基本計画では「国家基幹技術」として重点的に推進することとなっている。

然し、医薬の問題は、さらに複雑である。医薬は人間の生命健康に係わることであり、人間にとって、最も重要なことである。それ故に、最も重要な産業でもあり、将来性のある産業である。JAPICは、永年大変なご努力をされてデータベースを整備し、医療研究に多大な貢献をされているが、我が国の遅れは否めない。なぜ、このように遅れているのか。1)歴史的に、日本の基礎研究費が欧米に比べ少なく、医薬のもととなる基礎研究が十分に行われてこなかった。2)特に、治験研究、臨床研究に十分な研究費、研究者の体制がとれていない。医療保険や病院のシステムからみて、これら研究が十分行われるようになっているのであろうか。3)国際的にみて、ライフサイエンスの倫理問題について、科学的な議論の前に、社会的な議論が多く、非常に慎重になっている。国民一般の世論の問題ともなっていて、研究が前に踏み出せないでいる。

極めて重要、複雑且つ大きな問題である。本年4月に開催されたライフサイエンスサミットにおいて、本問題の議論が行われ、ライフサイエンス推進議員連盟会長尾身孝次先生は、政治の場で責任を持ってこの問題を検討するといわれた。元京都大学総長、元科学技術会議議員井村裕夫先生は永年この問題にご熱心に取り組んでおられる。JSTも研究開発戦略センターに井村先生をお迎えし、この問題に更に積極的に取り組んで頂こうと考えている。

政界、総合科学技術会議、厚生労働省、文部科学省はじめ関係者が一体となって、粘り強い取り組みが行われ、必ず問題が解決されることを期待する。

Information お知らせ

国内流通一般用医薬品を網羅する

「JAPIC 一般用医薬品集 2007 年版」今夏発刊予定!!

「JAPIC 一般用医薬品集 2007 年版」(青ジャピ)を来る 2006 年夏(予定)に発刊する運びとなりました。これまで「一般薬日本医薬品集」として、JAPIC 編集・(株)じほう発行で隔年発刊していましたが、今版より JAPIC が独自に編集・発行することといたしました。今夏発行の「JAPIC 一般用医薬品集 2007 年版」においては独自発行の利点を生かし、これまでより**低価格**でご提供できる予定です。詳細は決まり次第 JAPIC NEWS あるいは JAPIC ホームページ等でお知らせいたします。

「JAPIC 一般用医薬品集」の特徴は次のとおりです。

- ・毎年実施している一般用薬調査において収集した **2006 年 3 月時点**における最新一般用医薬品情報約 **12,000 製品分**を収録。(調査にご協力いただきました各製薬メーカー様に改めて御礼申し上げます)
- ・従来の網羅性を引き継ぐだけでなく、**資料面においても最新のもの**に更新しております。

「2005 年医薬品製造(輸入)承認品目一覧」の発行

JAPIC では、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造(輸入)承認資料を入手し、JAPIC データベース「SHOUNIN(ショウニン)」(更新月 1 回)でご提供しており、更に 1 年分をまとめて「医薬品製造(輸入)承認品目一覧」(1986 年創刊)を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品 2005 年分を掲載した 2005 年版を発行致しました。編集内容は、ご利用いただきやすいよう医療用(1221 件)、一般用(1205 件)別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。

ご購入をご希望の方は、FAX にて下記宛にお申し込み下さい。

会 員 10,500 円 / 1 部

非 会 員 21,000 円 / 1 部

申し込み・お問い合わせ先:事務局 業務・渉外担当 TEL.03-5466-1812 FAX.03-5466-1814

「第8回 JAPIC ユーザ会」開催案内

平成18年度第1回目の「JAPIC ユーザ会」を下記の要領で開催いたします。今回は平成18年度 JAPIC の新規事業・重点化事業についてご紹介いたします。

ユーザ会終了後、簡単な懇親会も準備させていただいております。多数のご出席をお待ち申し上げます。

プログラム

<東京会場> 平成18年6月7日(水) 長井記念館ホール

- 13:00～ : 受付開始
- 13:30～13:40 : 主催者挨拶
- 13:40～14:40 : 平成18年度新規事業・重点化事業のご紹介 - (JAPIC 担当者)
- 14:40～15:00 : 休憩 コーヒータイム
- 15:00～15:30 : 「iyakuSearch の活用事例」 ファイザー株式会社 齋藤 真紀子氏
- 15:30～16:30 : 特別講演「MedDRA 及び MedDRA/J 概要と最近の動向」
(財)日本公定書協会 櫻井 靖郎氏
- 16:30～16:40 : 全体の質疑応答、まとめ挨拶
- 16:40～18:00 : 懇親会 (長井記念館ホールロビー)

<大阪会場> 平成18年6月9日(金) 大阪商工会議所6階 白鳳の間

- 13:00～ : 受付開始
- 13:30～13:40 : 主催者挨拶
- 13:40～14:40 : 平成18年度新規事業・重点化事業のご紹介 - (JAPIC 担当者)
- 14:40～15:00 : 休憩 コーヒータイム
- 15:00～15:30 : 「JAPIC 情報活用事例」 兵庫県薬剤師会 藪下 圭子氏
- 15:30～16:30 : 特別講演「MedDRA 及び MedDRA/J 概要と最近の動向」
(財)日本公定書協会 櫻井 靖郎氏
- 16:30～16:40 : 全体の質疑応答、まとめ挨拶
- 16:40～18:00 : 懇親会 (大阪商工会議所6F ニューコクサイ)

参加費：無料

問合先：事務局 業務・渉外担当 (TEL：03-5466-1812)

お申し込みは JAPIC のホームページに掲載の申込書にご記入の上お送りください。

医薬品情報データベース

iyakuSearch に一般用医薬品添付文書情報収載

iyakuSearch に一般用医薬品添付文書情報を追加いたしました。医療用医薬品添付文書と同じ検索インターフェイスで一般用医薬品添付文書情報を検索し、PDF ファイルで添付文書イメージデータを提供いたします。

一般用医薬品添付文書と医療用医薬品添付文書を同時に検索することもできます。

< 一般用医薬品添付文書情報の概要 >

一般用医薬品添付文書情報は、医薬品名（商品名、一般名、有効成分名）および会社名からデータベースを検索し、添付文書のイメージデータを PDF ファイルでご覧いただける仕様となっております。

収録データは約 8,000 品目となっており、一部医薬部外品を含んでおりますが、医薬部外品だけを検索することもできます。

医薬品名、有効成分名、会社名いずれもカナ、漢字、アルファベットを使用して検索することができ、部分一致で検索いたします。

【一般用医薬品添付文書検索画面】

検索結果は添付文書ごとに表示され、必要な製品を選択すると添付文書の PDF ファイルを表示します。

本データは医薬文献情報、学会演題情報、規制措置情報の参考に、あるいは医療用医薬品添付文書とあわせてご利用ください。

【一般用医薬品添付文書検索結果表示】

医薬品情報データベース ユーザー 種 医薬品検索の使い方 FAQ お問い合わせ サイトマップ

iyakuSearch

検索結果 >> 検索結果一覧 >> 医薬品情報

医薬品情報データベース > 添付文書 > 印刷結果情報 (JDM)

医薬品名・会社名を入力してください。 [\[-iyakuSearchの使い方-\]](#)

文書区分: 既剤 一般用 その他

医薬品名:

会社名:

* 医薬品名は一般名/有効成分名あるいは商品名を入力して下さい。
 * 会社名は製造会社・輸入会社・販売会社・販売会社のいずれかを入力して下さい。
 * 会社名は株式会社等の法人表記を省略して入力して下さい。
 * 一部の医薬品は必ずしも記載していません。医薬品名に「医薬品」以外の文字列が含まれる場合は、新指定医薬品、新特選医薬品、新特選医薬品以外の区別を以て検索して下さい。

検索 リセット

検索結果表示 300件該当

10件表示 ページ 1 / 30

PDF表示リンクを押下する事で、添付文書が表示されます。 [検索結果を拡大印刷](#)

商品名	コデキス錠	添付文書(PDF)を表示する
一般名/有効成分名	ジヒドロコチン 20mg、グアイフェネシン 200mg、d-塩酸メチルエフェドリン 30mg、マレイン酸クロルフェニラミン 75mg、アセアミノフェン 600mg、カフェイン 100mg	
会社名	新沢製薬(株) / 販売: 長生堂製薬(株) /	
商品名	せきえがお	添付文書(PDF)を表示する
一般名/有効成分名	ジヒドロコチン 10mg、d-塩酸メチルエフェドリン 25mg、ノスカピン 20mg、マレイン酸クロルフェニラミン 4mg、グアイフェネシン 100mg	
会社名	新沢製薬(株) / 販売: 池田薬品工業(株) /	
商品名	新ビノコココリ錠剤	添付文書(PDF)を表示する
一般名/有効成分名	アセアミノフェン 254mg、マレイン酸クロルフェニラミン 24mg、ジヒドロコチン 4mg、d-塩酸メチルエフェドリン 12mg、無水カフェイン 40mg、カンゾウエキス 300mg (カンゾウ20g)	
会社名	新沢製薬(株) / 販売: 池田薬品工業(株) /	

咳(せき)として粘痰がひどく、喉が乾く状態にも

使用上の注意

してはいけないこと
 (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)
 1. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと
 他の鎮咳去痰薬、かぜ薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬(鼻炎用内服薬、乗物酔い薬、アレルギー用薬)、鎮静薬
 2. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと
 (眠気があらわれることがある)

相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談すること
 (1) 医師の治療を受けている人。
 (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
 (3) 授乳中の人。
 (4) 高齢者。
 (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
 (6) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 (7) 次の症状のある人。
 高熱、排尿困難
 (8) 次の容態を受けた人。
 心臓病、高血圧、糖尿病、緑内障、甲状腺機能障害

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談すること
 (1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
その他	排尿困難

(2) 5～6回服用しても症状がよくなる場合

【一般用医薬品添付文書】

平成 17 年度事業及び収支状況の概要

平成 17 年度からスタートした第二期中期 3 ヶ年計画は、第一期中期計画を基盤として公益法人としての活動を更に充実すべく、不特定多数のユーザにも喜んで使って頂ける情報を提供することを基調にしました。その第一年目に当たる平成 17 年度は、これまでの各種市販後情報の中身の充実と価格の低減に加えて、市販前に係る情報、いわゆる研究開発支援情報の一環として臨床試験情報及び新薬承認審査に関する情報提供を基軸に取り組みました。

以下、事業及び収支状況の概要を報告します。

〔事業概要〕

1. 「JAPIC 医療用医薬品集」及び同インストール版 (CD-ROM) の発刊

平成 16 年度まで「医療薬日本医薬品集」(株)じほう販売)として発行していた書籍を、17 年度より販売会社を丸善(株)に変更し、「JAPIC 医療用医薬品集」としてこれまでの価格のほぼ半額で 9 月 1 日に JAPIC 自ら発刊しました。同時に「JAPIC 医療用医薬品集」インストール版 (CD-ROM) も年 4 回 (10 月・1 月・4 月・7 月)更新データ版として提供し、1 月版では一般用薬のデータも収載しました。

2. 「JAPIC 医療用医薬品集」の更新情報提供サービスの開始

主に医療機関、支払基金、国保連合会等におけるニーズに対応して、添付文書の改訂情報を「JAPIC 医療用医薬品集」の形式で毎月印刷し、該当頁の記述やシール形式にするなどメンテナンスが容易にできるサービスを開始しました。

3. 「添付文書記載病名集」の新規発刊

医療機関、薬局等でのニーズに対応して、効能効果と標準病名を結びつけた「添付文書記載病名集」2006 - 刊行記念 - (冊子)と同 CD-ROM を 12 月中旬に発刊しました。また、同データベースも医療情報ベンダー向けに説明会を開催し、普及に取り組みました。

4. 医薬品情報データベース iyakuSearch の充実・拡充

平成 17 年 7 月から iyakuSearch に「臨床試験情報 (JapicCTI)」をリリースし、臨床試験情報の登録と公開を開始しました。平成 18 年 2 月からは臨床試験結果の登録と公開を開始しました。

また、臨床試験情報については IFPMA のポータルサイトへの対応を行いました。更に 10 月から「一般用医薬品添付文書情報」の公開を開始しました。これらはいずれも誰でも無料で利用できるデータベースであり、アクセス数も 33,000 件/月以上となり、かなり普及してきました。

5. 国内医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC - Q サービス) の改善

平成 17 年度も利用者数の増加など堅調に推移しました。学会情報収集方法も抜本的に見直し、その結果収集学会数 (延べ数) は前年度に比べ 10% 増となりました。

6. JAPIC Daily Mail 関連の充実と普及

平成 17 年度は医療機関向けの情報を充実させるため、これまで製薬企業にのみ提供してきた「JAPIC Daily Mail (海外規制当局等安全性措置情報)」サービスの中から、医療機関並びに医学・薬学教育機関向けに役立つ情報を選択して配信する「JAPIC WEEKLY NEWS」の提供を開始しました。

7. 「日本の新薬」(新薬承認審査報告書)の発刊

研究開発支援事業の一つとして厚生労働省が公開した新薬承認審査報告書のデータベース化及び冊子体(日本の新薬)の発刊作業を行いました。(平成10年1月承認分~平成18年1月承認・公表の337成分。全20巻、本文総ページ数は約11,000ページ)

本報告書は平成18年5月中旬に発刊いたしました。今後はデータベースとしての普及を図る予定です。

〔収支状況概要〕

平成17年度における収入の合計額は15.6億円、支出の合計額は14.5億円であり、差引収支差額は1.1億円の収入超過でした。平成16年度の収支差額は2.3億円であり、前年度と比較すると黒字幅は若干低下しました。これは「医療用医薬品集」をJAPICが初めて編集から発行までを独自に行ったことや「添付文書記載病名集」を新規に発行したことによる初期経費、印刷費、広告宣伝費等の経費が大きく膨らんだこと等によるものです。なお、支出の中には、減価償却引当預金、システム開発引当預金等のための支出が1.9億円含まれており、一定水準の内容を確保できたものと評価しています。

平成17年度収支計算書

(単位：千円)

収 入	金 額	支 出	金 額	差引額
基本財産運用収入	(320) 565	事 業 費	(762,608) 949,791	
会 費 収 入	(481,846) 477,324	管 理 費	(231,789) 227,923	
事 業 収 入	(1,053,604) 1,062,741	固定資産取得支出	(89,797) 76,890	
雑 収 入	(8,883) 22,409	特定預金等支出	(230,010) 190,716	
		その他の支出	(0) 8,719	
計	(1,544,653) 1,563,039	計	(1,314,204) 1,454,039	(230,449) 109,000

()は、平成16年度の数値である。

(理事・事務局長 持田秀男)

平成 18 年度事業計画

平成 18 年度は第二期中期 3 ヶ年計画の 2 年目にあたります。中期計画では公益法人の使命を遵守し、透明性の高い運営を行い医薬品ならびに関連情報の収集・提供を通じて会員とともに広く社会に貢献するという基本理念のもと、ユーザーに対し信頼される情報、使い易い情報を作り、広く普及して存在価値の高い JAPIC にするという大目標を掲げております。この基本理念、大目標を念頭において昨年度に引き続き本年度も事業を遂行していきます。

さて本年度の事業計画遂行にあたっては、特に前年度からの継続事業の中で未だ成熟していない事業を充実していく所存です。中でも「医療用医薬品集」は JAPIC 自らの編集・発行が 2 年目を迎えることから、前年度の編集プロセス、販売・普及状況をよく吟味し、2007 年版の制作及び普及・販売活動を一層強化していきます。また、前年末に刊行した医療用医薬品集の姉妹編である「添付文書記載病名集」は医療機関、薬局を中心に普及が徐々に浸透してきています。本冊子及び同 CD-ROM、データベースについては内容の充実と共に販売・普及に力を入れていきます。これら 2 つは、添付文書情報関連事業として重要な柱であり、平成 18 年度での足固めが重要と考えています。

一方、急速に進んでいる IT 化の流れに伴って、電子システムの基盤整備も重要です。その一環として前年度に行った添付文書管理システム・データからの「医療用医薬品集」及び「添付文書記載病名集」の編集・刊行の実績を基に、平成 18 年度も引き続きプロセスの改善・応用を進めていく予定です。また、それらの事業を通じて JAPIC 内データベースのシステムを整備し、より効率的なものに構築すると共に、電子媒体での情報提供も拡充していきます。

加えて、前年度から開始した研究開発情報の充実にも注力していきたいと考えています。特に臨床試験情報登録公開・結果公開の推進および新薬承認審査報告書集「日本の新薬」の刊行とデータベース化の促進を図ります。これにより、従来の PMS 主体型 JAPIC 情報に研究開発段階の医薬品情報を加えることができ、医薬情報センターとして、さらなる使命を果たしていきたいと思えます。

尚ここ数年 JAPIC 会員の中で医療機関の退会傾向が見られています。医療機関、大学等会員の会費値下げ、G 会員（小規模機関）の設定、提供情報の見直しを行いましたので、本年度は広く JAPIC 情報を活用頂くように会員の拡大に努める所存です。

本年度の重点事業として下記の 6 計画を挙げています。

- (1) JAPIC「医療用医薬品集」2006 の普及と 2007 年版の編集・発行、普及
2006 年版の普及に努め、更新情報をシート形式で予定どおり提供すると共に電子的提供方法についても検討する。同時に CD-ROM 版（年 4 回）の普及にも努める。
更に 2006 年版を基にした 2007 年版の編集・発行、普及に努める。
- (2) 添付文書データの内容充実と利用カスタマーの増進
平成 17 年末に刊行した「添付文書記載病名集」冊子の 4 月薬価改定版の発刊、CD-ROM 及びそのデータベースの利用者への普及に最重点を置く。また、添付文書関係のデータベースの更新をタイムリーに行いながら内容充実と利用・普及を図る。
- (3) 国内医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC - Q サービス）の充実
医薬文献管理システム PhaDoMS の改良を行い、サービスの効率化向上を図る。著作権対応にも取り組む。

(4) iyakuSearch の充実と普及促進

会員及び非会員を対象に、iyakuSearch の利用者の一層の普及を図り、JAPIC の知名度向上に努める。同時に iyakuSearch 内容および利用法の改善を行う。

(5) 医薬研究開発情報の取り組み

平成 17 年度に iyakuSearch に搭載した臨床試験結果の公開システムでのデータ受け入れを行い、臨床試験登録と併せて研究開発情報開示の普及を図る。また IFPMA のポータルサイトとリンクし、国際的にも情報公開を推進する。

新薬承認審査報告書集「日本の新薬」の発刊およびデータベースとして電子的提供での普及を図る。

(6) 一般用医薬品情報の提供と検討

平成 17 年度に作成した添付文書のデータ化および iyakuSearch 上で公開した PDF の更新を継続し、冊子体「一般用医薬品集」の刊行を行う。また、医療用医薬品集の CD-ROM に一般用医薬品のデータを加えた CD-ROM の作製やデータの提供を通して一般用医薬品情報の普及・販売に努める。

首記を含む事業を効率よく達成するために人員配置の一層の適正化や専門家の活用を図っていく予定です。職員数は従来の方針どおり 50 名以内とし、予算の範囲内で効率的な管理・運営を行うよう努めます。更に、業務を効率的に進め質的向上を図るために、情報の共有化や組織の活性化等を推進する所存です。

これらの事業を遂行するに当たっては、当財団の会員はもとより日本製薬団体連合会、日本製薬工業協会、日本医師会、日本薬剤師会、日本病院会、日本病院薬剤師会、日本看護協会をはじめとする医療関係諸団体並びに厚生労働省、医薬品医療機器総合機構及び関係機関のご支援・ご協力が重要かつ必要であります。

今後共皆様のご理解とご指導を頂くようお願いいたします。

(理事・事業部門長 山地 正克)



ラオスの薬屋

沢田 誠二 (NPO - DEFC 代表)

先回はラオスの様子と人々の風習の一つをお話し致しました。今回は薬屋と薬局です。とは申してもありがたいことに滞在中薬屋で薬を買うとか医者や病院へ行くことが全くありませんでしたので、お話しの内容は面談や知見をもとにしています。

薬草といわれるものは効くかきかないは分かりませんが、ラオスには沢山あります。安いことと伝統や習慣への安心からでしょうか、人々は怪我や病気で先ずこれを使います。ですから薬草屋はどこにでもあります。首都ヴィエンチャンでは観光ガイドに載っている“タラサオ(朝市)”の周辺道路沿いに並んであります。いろんな薬種(薬酒も)を売っています。見てまわるだけで楽しめます(写真1)。地方では食事店のテラスに居ると薬草売りが声をかけてきます。面白いから相手になっていると“これはどういう効果がある・・・”という話しをいっぱいしてくれます。一包 20 - 30 円、交渉すればこれ以下です。大体がせんじ薬です。

西洋薬を売っているもっとも小さいものは道路沿いにある市場の雑貨屋です。こういう市場へは細道でつながった電気もない周辺の村々から違う言葉と習慣を持つ人々が農作物や森の収穫物を売りに来ます。村人は売った金で欲しいものを買って帰ります。雑貨屋は履物、衣料品、セッケン、歯磨き、化粧品(口紅が売れています)、蚊取り線香、電池などと共に薬も売っています。傷や、風邪、おなかのくすりです。

町でもこの種の雑貨屋がありますが、法律(下記)が出来てからは独立した店舗が増えてきています。ラオス語及び西欧語併記の看板を掲げた店のガラス陳列棚には各種軟膏、風邪薬、下痢止め、整腸剤、ビタミン剤、マラリヤの薬に加え、むかし聞いたことのある抗生物質なども並べられています。直射日光が当りホコリをかむって“いったいどれだけの期間ここにあるのかしら?”と思えるものもあります。売れスジは風邪薬とおなか関係のものだと聞きました。家族計画の普及を知るための私の質問に、「 Condom (3っ入り 150 円) は置いているがほとんど売れない、たまに若い子たちが買っていく程度・・・」と店の人は言っていました。

ラオスに薬事法が制定されたのは6年前、薬屋に関する新しい法律は4年前です。日本の薬局方に相当するものは未だありません。私の滞在中の秘書、ソヴィエト(当時)の大学薬学部卒業がこれらを翻訳してくれました。薬局は薬剤師の学歴で3つに分類され、1級は大学薬学部卒、医療短大卒業で2級、新制度以前の薬屋は3級です。世界保健機構(WHO)の分類に従い、級ごとに扱うことができる医薬品の種類が決まっています。1級薬局は調剤も出来ます。薬剤師国家試験は未だありません。

登録による許認可制で、無資格店は暫時廃止の方向です。元秘書が送ってくれた保健省の資料には「・・・2002年の制定以降、町や都市部では薬剤師資格や他の基準も満たした店舗が増えた。今後は農村部でもこれを増やしていくことが必要・・・」とあります。統計数値を見ますと確かにその通りで薬屋総数は横ばいで、無資格店舗数の減少、認証店舗の増加が見られます。

この国の“くすり事情”は薬屋から薬局へ変わり始めています。またこれらの法律や資料を見ますと一般的な記載事項に加え、この国ならではの条文が見られ、その背景が垣間見えます。医薬品に関しては伝統薬への記述に加え、にせものや模造品、密輸品、覚せい剤や麻薬に関する条項がリアルです。薬屋関係では、営業資格では無国籍者の取り扱い、店舗の定期・不定期の査察、違反への罰則条項です。

(写真1)



ラオスへは地理的なこともあり近隣国からのさまざまな薬物流入(多分、流出や通過も)があります。これらの中にはみかけだけで効果が無いもの、有害物質が含まれているもの、にせブランド品、覚せい剤やアヘン、麻薬も含まれます。2年前の当地の新聞に出された保健省の公告(原文ラオス語)があります。興味があったので記録していました。記事は「・・・国は昨年(2003年)の7月以降実施している・・・」として「・・・にせ薬や効かない製品、先進国では禁止になった薬、有効期間が切れた薬などが横行している。これを防ぐために以下の医薬品は今後、保健省発行の新しい認証書を貼ってある製品以外、薬局は売ることができない」と述べ、リスト(以下)を表示しています。

ARI 剤	Amoxicillin, Ampicillin, Ciprofloxacin, Chloramphenicol, Cotrimoxazol, Erythromycin, Gentamicine, Kanamycin, Oxacillin, Penicillin V, Penicillin G, Sulfadiazine.
TB 剤	Ethambutol, Isoniazid, Rifampicin,
Anti-asthma 剤	Adrenaline, Aminophylline, Salbutamol,
Anti-malaria 剤	Chloroquine, Fansidar (Sulfadoxine+ Pyrimethamine), Quinine
Diarrhoea 剤	Loperamide, Tetracycline
STD 剤	Aciclovir, Cetirioxone, Ketoconazole, Metronidazole, Ofloxacin
AnalgesicNon-opioids	Diclofenac, Ibuprofene, Pracetamol, Piroxicam
Anti-histamines	Chlorpheniramine, Hydrocortisone, Prednisolone, Promethazine
Anthelmintics	Albendazole, Mebendazole, Niclosamide
Antacids	(Aluminium + Magnesium) Hydroxide, Cimetidine, Omeprazol
Narcotics	
Psychotropics	Codeine, Diazepam, Fentanyl, Morphine, Pethidine, Phenobarbital
Vitamins	B Complex、 3B (B ₁ , B ₂ ,B ₁₂)

表の医薬品がどういうものか詳しいことは私には分かりませんが、多分ラオスの医療にとってよく使われるもので、且つ上のような問題を含んでいる薬剤なのでしょう。公示された後どれくらいきちんと実施されているのか気になるところです。この国では形は作っても実施はいい加減であることが多いのです。でも、薬局関係では順調なようです。薬局はそれだけ多くの人々にとって重要であり、関係者には収益もあるからでしょう。申請と認可を基本としたこの方法はとても低い給与のこの国の公務員担当者たちに一定の収入を保証していることもあると思います。国民にとっては良い面と悪い面があるでしょう。

著者紹介

e-メール : sssawada@mvd.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~higeji-/laos/>

<http://homepage2.nifty.com/DEFC/>

Library

図書館だより No.192

◀新着資料案内 - 平成 18 年 4 月 11 日～平成 18 年 5 月 9 日受け入れ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No. 03-5466-1818

配列は書名のアルファベット順

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
British National Formulary No.51 British Medical Association, Royal Pharmaceutical Society of Great Britain イギリス医学会と薬学会の共同編集による医療用医薬品集。薬効別に配列（英語）	BMJ Publishing Group	2006年 3月	928p	¥7,499
注射薬の重大な副作用回避のための情報集 日本病院薬剤師会 編	じほう	2006年 3月	385p	¥3,780
第十五改正日本薬局方 厚生労働省	厚生労働省	2006年 3月	1,796p	
第十二改訂 調剤指針 日本薬剤師会 編	薬事日報社	2006年 4月	429p	¥3,360
エビデンスに基づいた抗菌薬適正使用マニュアル - 県西部浜松医療センターではこうする 矢野 邦夫 編	メディカ出版	2006年 5月	194p	¥3,360
医育機関名簿 2005-'06 羊土社名簿編集室	羊土社	2005年 18月	618p	¥13,650
医療・医薬品業界の一般知識 2006 薬事経済研究会 監修	じほう	2006年 4月	422p	¥3,990
医薬品トキシコロジー 改訂第3版 佐藤 哲男 他	南江堂	2006年 4月	301p	¥3,990
医薬情報担当者 MR研修テキスト 2006年版 疾病と治療 テキスト編集委員会 編	医薬情報担当者教育センター	2006年 1月	349p	
医薬情報担当者 MR研修テキスト 2006年版 薬理学・薬剤学 テキスト編集委員会 編	医薬情報担当者教育センター	2006年 1月	169p	

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
医薬情報担当者 MR研修テキスト 2006年版 医薬概論・PMS・添付文書	テキスト編集委員会 編	医薬情報担当者教育センター	2006年 2月	252p	
科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン 2006年版	日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン作成小委員会 編	金原出版	2006年 3月	121p	¥2,730
感染症法に基づく医師の届出基準	日本医師会地域医療第三課	日本医師会	2006年 3月	160p	
後発医薬品名一覧 平成18年4月版	石崎 政男 編	中和印刷	2006年 4月	357p	¥2,915
Medicines out of control? 暴走するクスリ? 抗うつ剤と善意の陰謀	チャールズ・メダワー 他著 吉田 篤夫 他訳	特定非営利活動法人医薬ビジランスセンター	2005年 12月	407p	¥2,940
レセプト事務のための薬効・薬価リスト 平成18年版	医薬情報研究所 編	じほう	2006年 4月	987p	¥6,825
Rote liste 2006 - Arzneimittelverzeichnis für Deutschland	Rote Liste Service GmbH	Editio Cantor Verlag	2006年		¥14,963
ドイツの医薬品集。薬効分類番号順に配列（ドイツ語）					
新 小児薬用量 改訂第4版	五十嵐 隆、渡辺 博、木津 順子 編	診断と治療社	2006年 4月	454p	¥3,045
Side effects of drugs annual 28 -A worldwide yearly survey of new data and trends in adverse drug reactions and interactions	Aronson,J.K. , ed.	Elsevier(NLD)	2005年	693p	¥47,758
STANDARD TEXTBOOK 標準小児科学 第6版	森川 昭広 他編	医学書院	2006年 3月	746p	¥9,240
大衆薬事典 2006～2007（一般用医薬品集第10版）	日本大衆薬情報研究会 編	じほう	2006年 4月	964p	¥5,250
添付文書記載病名集 2006 4月薬価改訂版	(財)日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	1,319p	¥7,000
ViDAL 2006 Le dictionnaire 82ed.	Vidal editions	Vidal	2006年	2,817p	¥34,430
フランスの医薬品集。商品名順に配列（フランス語）					
薬事衛生六法 2006年版	日本公定書協会 編	薬事日報社	2006年 4月	1,606p	¥4,935
薬事ハンドブック2006	じほう	じほう	2006年 3月	509p	¥2,520

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
薬事法規・制度マニュアル 改訂第8版	中村 健 他	南山堂	2006年 4月	180p	¥3,990
薬剤性肺障害の評価、治療についてのガイドライン[呼吸器専門医、一般臨床医家に向けた情報提供と適切な対応を期待して]	日本呼吸器学会薬剤性肺障害ガイドライン作成委員会 編	日本呼吸器学会	2006年 4月	69p	¥2,000

「JAPIC J」No.5 2006 の発行

「JAPIC J」No.5 を 5 月末に発行しました。本誌は JAPIC 主催の講演会、薬事研究会等で発表された内容の中から主要なものを取りあげ掲載しております。また、読んで役にたつ記事も掲載しております。どうぞご利用ください。

本誌は会員機関の皆様には無料でお送りいたします。

(内容)

シリーズ：時の動き

特集(1)：最近の医薬品安全対策 / 薬事監視指導行政

特集(2)：患者のための最適医療の実現

特集(3)：医薬品の適応外使用情報について

特集(4)：医薬品情報を調べる - インターネットの活用

JAPIC 会員としてご入会いただいた機関 (4 月 ~ 5 月)

大阪薬科大学 帝京大学薬学部 広島国際大学薬学部

* お詫び

(JAPICNEWS 5 月号 No.265) 4 ページ掲載の

第 125 回薬事研究会開催案内中

(独) 医薬品医療機器総合機構 品質管理部長 新見 祐一氏 のお名前は

正しくは 新見 裕一氏です。お詫びして訂正いたします。

情報提供一覧

平成 18 年 5 月 1 日から 5 月 31 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
 出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当
 (TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」5月号	5月26日
2. 「Regulations View」No.129	5月26日
3. 「JAPIC NEWS」No.266	5月26日
4. JAPIC「医療用医薬品集」更新情報 2006年5月版	5月31日
5. 「医薬品製造(輸入)承認品目一覧」	5月10日
6. 「JAPIC 医薬資料ガイド」	5月16日
7. 「JAPIC J」No.5	5月31日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」No.534 - 536	毎週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス(JAPIC-Q サービス)」	毎週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス(JAPIC Daily Mail)」No.1213 - 1232	毎日
5. 「感染症情報(JAPIC Daily Mail Plus)」No.139 - 142	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日
データベース一覧	
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随時
5. 規制措置情報	毎日
6. 臨床試験情報	随時
7. 日本の新薬	テストリリース中
<JIP e-InfoStream から提供> <https://e-infostream.com/>	
1. 「JAPICDOC 速報版(日本医薬文献抄録速報版)」	月 1 回
2. 「JAPICDOC(日本医薬文献抄録)」	月 1 回
3. 「ADVISE(医薬品副作用文献情報)」	月 1 回
4. 「MMPLAN(学会開催予定)」	月 1 回
5. 「SOCIE(医薬関連学会演題情報)」	月 1 回
6. 「NewPINS(添付文書情報)」(月2回更新)	月 2 回
7. 「SHOUNIN(承認品目情報)」	月 1 回
<JST JDream から提供> <http://pr.jst.go.jp/jdream2/>	
「JAPICDOC(日本医薬文献抄録)」	月 1 回

JAPIC 新刊書籍のご案内

薬効別 日本の新薬 - 新薬承認審査報告集 -

B5判 全20巻 総頁数 約11,000

各巻定価：22,000円（各1冊 / 税別・送込）

セット価格：220,000円（全20巻 / 税別・送込）

審査報告書の集大成：平成10年1月～平成18年1月公開分までの審査報告書の全文を収録しています。

薬効別に編集：全審査報告書を薬効別に収録。同一の薬効のものは五十音順に並べ、使い勝手に留意しました。

修正箇所が一目でわかる：修正箇所については、修正前と修正後を本文中に反映し、わかりやすく表記しました。



お問い合わせ先

(財)日本医薬情報センター 事務局 業務・渉外担当
TEL 0120-181276 FAX 0120-181461